

V 令和3年度 全国大会報告

第96回令和3年度全日本盲学校教育研究大会・栃木大会

1 大会概要

- (1) 大会主題 「これからの時代に対応した視覚障害教育
～新しい社会の作り手を育む教育・支援のあり方～」
- (2) 主管校 栃木県立盲学校
- (3) 開催期間 令和3年8月2日(月)～8月31日(火)

2 内容

- (1) 全体会(講演)
- 演題「コロナ禍の先へ～『野生の勘』が視覚障害教育の未来をひらく～」
- 講師 国立民族学博物館 准教授 広瀬 浩二郎 氏
- (2) 分科会研究テーマ
- ① 第1分科会(学習指導1)
 - ・ 視覚障害の特性に応じた学習の基礎・基本を身につけるための指導
 - ・ コミュニケーション能力や表現力、発信力を育てる指導
 - ② 第2分科会(学習指導2)
 - ・ 視覚障害の特性に応じた学習の基礎・基本を身につけるための指導
 - ・ 意欲を引き出す指導や気づきに繋がる指導、教材・教具の工夫
 - ③ 第3分科会(生活)
 - ・ 主体的に自己の力を発揮し、自立と協働を目指した指導
 - ・ 多様化した幼児児童生徒の社会参加に向けた支援のあり方
 - ④ 第4分科会(特別支援)
 - ・ 視覚特別支援学校(盲学校)における専門性の維持・向上
 - ・ 視覚障害教育におけるセンター的役割とネットワーク及び課題
 - ⑤ 第5分科会(理療)
 - ・ 理療教育における主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)の実践
 - ・ 認定規則改正に伴う追加カリキュラムの指導上の課題と工夫
 - ・ 臨床実習における授業事例研究～実習指導に苦慮する生徒への実践的指導を中心に～

3 報告

本大会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためオンデマンド配信となった。約1ヶ月の配信期間があり、各発表に対する質問はオンライン上でやりとりが可能となり、参加者が質問、発表者の回答も閲覧することができた。例年、明星視覚支援学校より代表数名が各分科会に参加し、校内で開催される報告会をもって本研究大会の内容の共有化を図ってきた。今年度は、配信期間の中で、本校全職員が視聴できるよう校内研修として計画し実行した。これにより、本校職員が全国的な取組や視覚障がい教育における今日的課題を知ることができた。本校として初めての試みであったため、教育情報を管轄する校務部と連携し閲覧する際の注意やログインの手順等丁寧に説明を行った。職員からは、全国的な取組を視聴できたことがよかった、自分のパソコンでアクセスし都合のよい時間に閲覧できてよかったと積極的な反応が多かった。次年度もこのオンデマンド配信が決定しているため、今年度の反省を生かし、多くの職員が閲覧し実践に繋げられるよう計画していきたい。

第55回全日本聾教育研究大会（島根大会）

1 大会概要

- (1) 大会主題 「子どもたちが自分らしく主体的に生きる姿を目指して」
(2) 期 日 令和3年10月14日（木）から15日（金）まで
(3) 場 所 島根県立松江ろう学校

2 内 容

【1日目】10月14日（木）

授業研究分科会（小学校、高等部）

【2日目】10月15日（金）

授業研究分科会（寄宿舍、幼稚部、中学部）

その他

【研究協議分科会】※オンデマンド配信

- ① 早期教育Ⅰ（乳幼児） ② 早期教育Ⅱ（幼稚部）
③ 教科指導Ⅰ（小学部） ④ 教科指導Ⅱ（中学部・高等部）
⑤ 寄宿舍教育 ⑥ 自立活動Ⅰ（聴覚活用、発音・発語、言語指導）
⑦ 自立活動Ⅱ（コミュニケーション、障がい認識、キャリア形成）
⑧ センターの機能 ⑨ 重複障がい教育（発達障がいを含む）

【記念講演】※オンデマンド配信

演題 「これからの聴覚障がい教育—「育てる」から「育つ」を支える教育へ—

講師 庄司 和史 氏（信州大学学術研究院総合人間科学系教授（教職支援センター所属））

3 報 告

今年度も、新型コロナウイルス感染防止対策のためにWEB会議システムを利用した研究大会となった。

授業研究分科会では、事前にオンデマンド配信で授業公開が行われた。大会当日は、ライブ配信で質疑応答や指導助言者からのまとめが行われた。小学部の国語の授業では、児童の課題解決のために思考を可視化する手立てとして「思考ツール（頭の中にある知識や新しく得た情報を一定の視点や枠組みに従って書き出すツール）」を活用した実践が行われていた。ツールの活用によって頭の中の思考を視覚的に捉えることができるようになり、考えを広げたり、一つの物事を多面的に見たり、イメージを膨らませたりすることができるようになったと報告があり、大変興味深く感じた。記念講演は、オンデマンド配信で行われた。庄司先生が「“ことば”は子どものもの。子どもの思いは、子ども自身のもの。」と話された。また、論理的思考につながることばかけの必要性についても話された。ことばを意識するあまり、子ども自身のことばや思いを先取りして言ってしまっていないだろうか、子どもが思考することばかけができているだろうか、自分自身の言動をふり返り考える機会となった。

第50回全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会全国大会（山梨大会）

1 大会概要

- (1) 大会テーマ 「育てよう！子どものこころとことば」
- (2) 期日 令和3年11月5日（金）～11月30日（火）
- (3) 方法 オンデマンド（YouTube）による映像配信

2 内容

- (1) 記念講演 「ことばの発達と読みの発達 ～読むことに困難さのある児童への支援～」
講師 原 恵子 先生 （上智大学言語化学研究科）
- (2) 特別講義 分科会コーディネーターによる専門講義

第1分科会	構音障がいのある子どもの指導・支援	中澤 洋子先生 (長野ろう学校言語聴覚士)
第2分科会	吃音のある子どもの指導・支援	小林 宏明先生 (金沢大学)
第3分科会	難聴のある子どもの指導・支援	澤隆 史先生 (東京学芸大学)
第4分科会	通常の学級における多層指導モデルMIM ～学びを楽しみ 学びから自信を得る	海津 亜希子先生 (国立特別支援教育総合研究所)
第5分科会	情緒をコントロールする力と自尊心感情を 高めるための支援	吉井 勘人先生 (山梨大学)
第6分科会	『つながり』 ～ 子どもの思いに寄り添って ～	滑川 典宏先生 (国立特別支援教育総合研究所)

3 報告

今年度の研究大会は、新型コロナウイルス感染防止のため、3月発行の全難言協機関誌「きこえとことば」の中で誌上大会を行うことになっている。また、誌上大会とは別に、記念講演と分科会特別講義について映像配信をすることになった。

全体会の記念講演では、読み書き障害を通して、読み書きスキルの基盤、読み書きとことばの発達や学習との関連等についての話があった。最近では言語・難聴障害と発達障害を併存する児童が多くなっているため、どのような支援が必要なのかを考えることも課題の一つとなっている。

指導者が様々な障害に対応するためのアセスメントや指導法の知識が必要となってくる。そこで、読み書き障害を通して、読み書きスキルの基盤、読み書きとことばの発達や学習との関連等についての話があった。児童生徒のつまずきやそれに対応するための支援等、今後の具体的な指導に結び付けることができる内容であった。

分科会「構音障がいのある子どもの指導・支援」の講義では、ことばの教室担当者の専門性についての話があった。A視点（治療的、医学的モデル）による指導とB視点（学校、教育的モデル）による指導も両方必要であるとのことだった。また、認められ称賛される成功体験を積み重ねることで、よりよい発話、発言、コミュニケーションに影響すると話され、改めてこれまでの指導・支援を振り返ることができる内容であった。他の分科会でも多くの学びを得ることができ、充実した大会であった。

第60回全日本特別支援教育研究連盟全国大会「和歌山大会」

1 大会概要（誌上開催）

- (1) 大会主題 「共生社会の中で、生涯を通じて共に学び合い育ち合う子供たち」
 ～主体的に生きる力をはぐくむ教育の充実を目指して～

2 内 容

- (1) 誌上講演

演題：「未来を生きる子どもたちの発達を支える」

～共生社会を育むための多様性と調和～

講師： 神戸大学大学院人間発達環境学研究科 教授 鳥居 深雪 氏

- (2) 研究発表

三木安正記念研究奨励賞受賞者

「通常学級内での個別支援を効果的にする環境整備の在り方

：若手教員へのコンサルテーション」

大阪府泉大津市教育委員会事務局教育部指導課 指導主事 田中 優子

- (3) 分科会（全16分科会）

	分科会名	分科会テーマ	提案者
1	就学前教育（保幼小の連携）	一人一人のニーズに応じた早期支援	沖縄県・和歌山県
2	高等学校における特別支援教育	高等学校における特別支援教育の推進	山口県・和歌山県
3	通級による指導	一人一人のニーズに応じた通級指導	湖南市・紀の川市
4	コーディネーター	コーディネーターによる地域支援の取組	日置市・和歌山県
5	視覚障害教育に係る地域支援の取組	地域ネットワークを生かした各学校等への支援の在り方	長野県・和歌山県
6	小・中学校における合理的配慮	特別な教育的ニーズのある児童生徒への合理的配慮	札幌市・日高川町
7	ICT 活用	ICT のよさを生かした授業作り	大田原市・湯浅町
8	交流及び共同学習	地域の特性を生かした交流教育の取組	大阪市・和歌山県
9	教科別の指導①（小学校・小学部段階）	特別支援教育における教科別指導の在り方	京都市・橋本市
10	教科別の指導②（中学校・中学部段階）	特別支援教育における教科別指導の在り方	富山市・串本町
11	各教科等を合わせた指導①（生活単元学習）	一人一人の教育的ニーズに応える生活単元学習の在り方	可児市・海南市
12	各教科等を合わせた指導②（作業学習）	自立と社会参加に向けた作業学習	愛媛県・和歌山県
13	自立活動	一人一人の障害による困難の改善・克服をめざした自立活動の在り方	橿原市・田辺市
14	キャリア教育	小中高等部の系統性を踏まえた指導内容づくり	山形県・和歌山県
15	健康・安全教育	命を大切にする力を育む指導の在り方	奥州市・上富田町
16	障害者スポーツ・文芸芸能活動	生涯にわたる豊かな生活の実現につながる取組	千葉県・長崎県

3 報 告

今回の研究大会は、新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止となった。

来年度は、秋田県で開催予定である。

第67回全国肢体不自由教育研究協議会全国大会 富山大会

1 大会概要

- (1) 大会主題 「肢体不自由教育の充実をとおした共生社会形成の推進」
～主体的・対話的で深い学びのある教育実践をとおして～
- (2) 期 日 令和3年12月13日(月)～12月27日(月)
- (3) 開催形式 <Web上での開催>
第67回全国肢体不自由教育研究協議会富山大会ホームページ

2 内容

- (1) Web上にて動画または電子文書の配信による実施。
- ・会長挨拶 ・実行委員長挨拶 ・来賓祝辞
 - ・文部科学省講話
演題：「肢体不自由教育の現状と今後への期待～学習指導要領の着実な実施に向けて」
講師：初等中等教育局特別支援教育課
特別支援教育調査官 菅野 和彦 氏
 - ・記念講演講話
演題：「児童虐待と脳の発達-マルトリートメントによる脳への影響と回復へのアプローチ」
講師：福井大学子ども心の発達研究センター
発達支援研究部門 センター長(教授)友田 明美 氏

(2) 第1分科会～第10分科会

分科会	内容
第1分科会	授業改善
第2分科会	学習指導Ⅰ(準ずる教育課程)
第3分科会	学習指導Ⅱ(知的代替の教育課程)
第4分科会	学習指導Ⅲ(自立活動を主とする教育課程)
第5分科会	自立活動
第6分科会	健康教育
第7分科会	情報教育・支援機器の活用
第8分科会	生活指導・寄宿舎教育
第9分科会	キャリア教育及び進路活動
第10分科会	地域との連携

- ・提案者からの事例報告 各分科会2名 音声付きプレゼン・動画等による報告
- ・助言者からの指導助言 音声付きプレゼン・動画等による指導助言

【ポスター発表】

- ・Web上でのポスター(PDF)発表

【教材教具紹介】

- ・ Web 上での富山県肢体不自由教育研究協議会会員の紙面 (PDF) 発表

【大会冊子】

- ・ 大会期間は大会概要等、一部データのダウンロードが可能
- ・ 大会集録を作成し、開催終了後に参加各校あてに送付

3 報告

本大会は、事前収録された動画を大会ホームページ上で開催期間にアクセスして見る形で実施された。記念講演では、友田明美氏がマルトリートメントの予防と、家族の側に居るとともに子育てに寄り添う「とも育て」についての話をされた。大人の子どもに対する接し方による脳への影響が、科学的に明らかとなっており、子育て困難な家庭に対して寄り添いながら支えていくことが必要であるという内容だった。文部科学省講話では、GIGA スクール構想の充実として、特に肢体不自由の支援学校では、入出力支援機器等の整備、活用が必要であり、集団での学習を保障するために遠隔教育の取り組みも行われているという事例紹介があった。また、指導計画を作成する際には、各教科の段階に示す内容を基に具体的な内容を設定していくことが必要であるという内容で話をされた。分科会は、各分科会 2 つずつの事例報告の動画と、助言者からの指導助言を視聴することができ、ポスター発表では計 92 のポスターを閲覧することができた。教材教具紹介では、63 の教具について、作り方や使い方等を紹介されていた。Web 開催となったことから、学校や自宅から全ての動画や資料を視聴・閲覧することができ、全国の多くの参加者にとって、大変有意義な大会となった。

第62回 全国病弱虚弱教育研究連盟研究協議会 奈良大会

1 大会概要

- (1) 大会主題 「児童生徒個々のニーズに応じた、生きる力を育む病弱教育のあり方」
～ 今ここから つなげよう つながろう ～
- (2) 期 日 令和3年8月19日(木)～31日(火)
- (3) 方 法 動画および電子文書の配信

2 内 容

- (1) 全体会
①全病連理事長あいさつ
②主管校校長あいさつ
- (2) 記念講演
演題「分身ロボット OriHime による新たな働き方 社会とのつながり方」
講師 株式会社オリィ研究所 代表 CEO 吉藤 オリィ氏
- (3) 特別講演
演題「新しい時代の特別支援教育～今後の病弱教育に求められるもの～」
講師 文部科学省 初等中等教育局特別支援教育調査官 深草 瑞世氏
- (4) 分科会

分科会名	担当提言校
教科・領域の指導	宮城県立西多賀支援学校 東京都立光明学園 そよ風分教室
自立活動の指導	東京都立武蔵台学園府中分教室 大阪府立刀根山支援学校 大阪精神医療センター分教室
進路指導・キャリア教育	大阪府立羽曳野支援学校 堺咲花病院分教室 和歌山県立みはま支援学校
センター的役割	東京都訪問教育・病弱教育研究会 北海道手稲養護学校三角山分校
P T A	静岡県立天竜特別支援学校 東京都立光明学園
I C T	埼玉県立けやき特別支援学校 佐賀県立中原特別支援学校
心身症・精神疾患のある子どもの指導	埼玉県立けやき特別支援学校 伊奈分校 滋賀県立鳥居本養護学校
ベッドサイド教育・病院との連携	滋賀県立守山養護学校 岐阜県立長良特別支援学校
高校生への支援及び学習指導	栃木県立岡本特別支援学校 おおるり分教室 京都市立桃陽総合支援学校

- (5) 特別企画
ロボットプログラミング選手権について 開催校・参加校の取組

3 報 告

今大会は、web 上で動画や電子文書の配信が行われた。学校単位で申し込み、発行された I D とパスワードを入力すると大会期間中、いつでも閲覧することができた。そのため、夏季休業中の研修の一環として視聴することができ、これまでよりも多くの会員が大会に参加することができ意義深かった。参加者からは、特に「人といかにつながるか・どうやって社会参加するか」について吉藤オリィ氏が話された記念講演について大変興味深かったという感想が多く寄せられた。

第53回全国情緒障害教育研究協議会「東京大会」

1 大会概要

- (1) 大会テーマ 「教師の理解の在り方や指導の姿勢で子どもがかわる」
- (2) 期 日 令和3年11月28日(日) 10:00～15:00
- (3) 場所(会場) ウェビナー(webセミナー)によるオンライン開催

2 内 容

- (1) 午前の部 10:00～11:50

【基調講演】

加藤 宏昭 氏

(文部科学省 初等中等教育局 特別支援教育課 特別支援教育調査官)

【記念講演】

西郷 孝彦 氏

(前 東京都世田谷区立桜丘中学校 校長)

- (2) 午後の部 13:00～15:00

【シンポジウム】

○コーディネーター

笹森 洋樹 氏

(国立特別支援教育総合研究所 発達障害教育推進センター上席総括研究員・センター長)

○シンポジスト

穂山 和也 氏 (広島県広島市立落合東小学校 教諭)

伊藤 陽子 氏 (宮城県仙台市立八乙女中学校 教諭)

3 報 告

第53回全国情緒障害教育研究協議会「東京大会」は、新型コロナウイルス感染拡大対策のため、ウェビナー(webセミナー)によるオンライン開催となった。

平成24年7月の「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育の推進(報告)」では、個別の教育的ニーズのある子どもに対し、自立と社会参加を見据え、その時々で教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できる、多様で柔軟な仕組みを整備することの重要性が掲げられている。

また、今回改訂された学習指導要領には「これからの社会がどのように変化して予測困難な時代になっても、子どもたち自らが課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい」という願がこめられている。

そのような子どもを育てるために、主体的・対話的で深い学びのできる授業改善が学校には求められている。

本大会では、「子どもたちをどのように理解すればよいか」「インクルーシブ教育システム構築のための教育内容や時間の配分、人的・物的体制をどのようにすればよいか」「どのような指導の姿勢が、教育活動の質を向上させるのか」「学習の効果の最大化を図ることができる指導とは」等、単なる指導方法の検討や協議に留まらず、学校全体を視野に入れた議論が行われた。